

令和4年度 社会 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

- 問題の内容別正答率では、5年生は3分の2以上の項目において目標値を上回った。4年生、6年生は全内容において目標値を下回ったが、4年生は「工場の仕事」において目標値に近づく結果となった。
- 領域別正答率では、5年生は1領域を除いて目標値を上回った。残る1領域も目標値に迫る結果が見られた。4年生、6年生は全領域において目標値を下回った。
- 観点別正答率では、5年生は2観点において、目標値を上回った。4年生、6年生は全観点で目標値を下回った。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は目標値を上回る結果となった一方、4年生、6年生は目標値を下回る結果となった。 4年生は市の様子の移り変わりについての問題、6年生は国土の様子についての問題において、目標値および昨年度の結果と比べて正答率が低い傾向が見られ、課題が残った。	4年生、5年生、6年生ともに目標値および昨年度の正答率を下回る結果となった。5年生は、目標値をわずかに下回った。 4年生は資料から防災ボランティアと子どもが被害にあう事件の件数との関連を捉え表現する問題、6年生は日本周辺がよい漁場であることを捉え表現する問題や、資料から日本の米の生産量と消費量の変化を捉える問題において、目標値を下回る結果となり、課題が見られた。	5年生は目標値を上回る結果となった一方、4年生、6年生は目標値を下回る結果となった。 4年生は地図記号や方位の理解をもとに、与えられた条件から目的地を読み取る問題、6年生は日本周辺がよい漁場であることを捉え表現する問題や、資料から日本の米の生産量と消費量の変化を捉える問題において、目標値を下回る結果となり、課題が見られた。

課題<今回の調査結果から>

- 知識・技能においては、地図記号や都道府県の位置、世界の地理、グラフや地図の読み取りに特に課題が見られた。普段から地図に慣れておくことや知識として定着させるべき語句などについては、小テストを課したり少しずつ授業内で振り返りをしたりするなど、意図的な知識定着の指導が必要であるといえる。また、教科書「学び方コーナー」にある各種資料の読み取り方を理解させ・定着させていく必要もある。
- 思考・判断・表現においては、全領域において資料を基に正答を判断したり、その社会的事象が起きている理由について表現したりすることに課題が見られた。資料の読み取りなどの技能を授業などで身に付けさせることと合わせて、読み取ったことをもとに表現する学習活動を意図的に授業内で取り入れ、繰り返し指導していくことが必要であるといえる。また、地図やグラフなどの読み取りの技能をもとに、資料から読み取ったことを自分の言葉でノートにまとめる活動、問題解決的な学習において学習問題に対して小単元で学習したことを比較・関連・総合し、学習問題に対する答え（自分なりに分かったこと）を短文で表現させる活動を取り入れていくことで、記述式問題に対しても苦手意識がなくなっていくであろう。
- 主体的に学習に取り組む態度については、自らの学習について振り返りながら学習をすすめることができるように単元の計画を立てていくことが必要であるといえる。また、社会的事象と日常生活での事物・事象とが結びつくことを実感したり、学習したことを日常生活で活用したりする経験を積んでいくことができるようにすることで、社会科の学習に対して主体的に学習に取り組む態度を育てることができよう。

